

平成二十七年二月十日提出
質問第五六号

辺野古新基地建設に係る警備体制に関する質問主意書

提出者 鈴木貴子

辺野古新基地建設に係る警備体制に関する質問主意書

沖縄県宜野湾市にある米海兵隊普天間飛行場を名護市辺野古に移設する政府案に反対し、普天間飛行場の県外移設を訴え、二〇一〇年の知事選挙で当選した沖縄県の仲井眞弘多前知事が、二〇一三年十二月二十七日、一転して辺野古の埋め立てを承認した。一方で、昨年一月十九日、沖縄県名護市長選挙が執行され、反対する現職が二期目再選を果たした。更に同年十一月十六日、同じく辺野古の埋め立ての反対を訴えていた翁長雄志氏が新たに沖縄県知事に選出された。右と答弁書（内閣衆質一八六第五九号、内閣衆質一八六第四号、内閣衆質一八六第二四号）を踏まえ、質問する。

一 米軍普天間飛行場返還に伴う新基地建設で市民の反対行動に対し、海上保安庁による警備活動が危険行為を伴っているとの報道がされているが、右は事実か。

二 本年二月三日の参議院予算委員会で、菅義偉官房長官は、名護市辺野古の新基地建設工事を抗議する市民への海上保安庁などの警備について、「丁寧に警備している。けが人が出ているとの報告はうけていない」と述べている。また二月三日以降、海上保安庁の警備活動によって、反対行動にでる市民からけが人が出ていると報道されているが、現時点でけが人がでたとの報告は受けているか。また、どのような体制

で丁寧な警備しているのか、具体的に説明されたい。

三 名護市長選挙、沖縄知事選挙結果を受けた後も、政府が辺野古移設を断行するのなら、機動隊の出勤等、反対住民との物理的な衝突が生じることが、懸念されると考えるが、政府の見解如何。

四 身を投じて政府の方針に反対を示す市民がいる事にも関わらず、政府として、同計画を白紙に戻す、または他の方策を模索する意思はないのか。政府の見解如何。

右質問する。